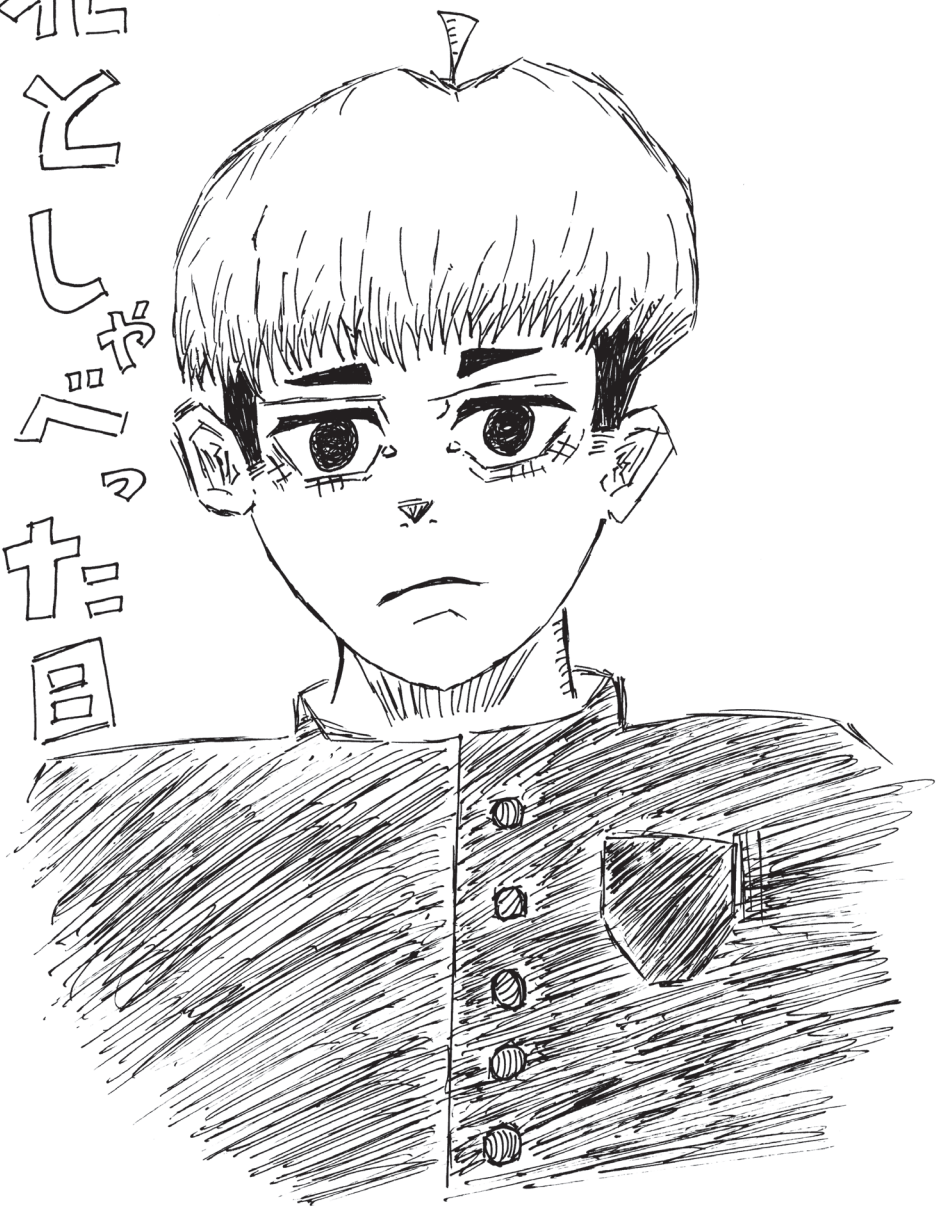
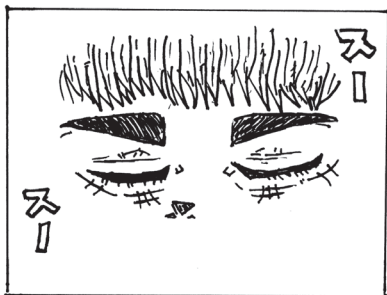
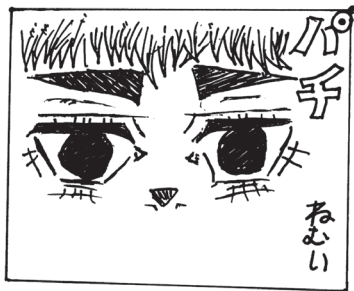


花
と
しゃ
べ
っ
た
日

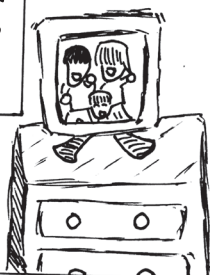


【ポイント】自分の頭の中で「人見知り」な人をソウゾウしました。マンガだけではなく、実際にいると思う。

いつものように
朝起きる。

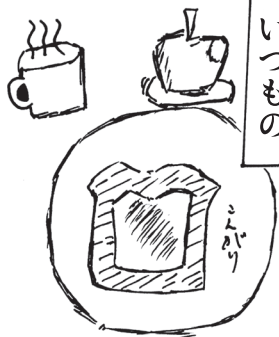


それから
一人になった。



両親はぼくが
小5の時に
事故で死んだ。
大っ好きだった。

朝ごはん



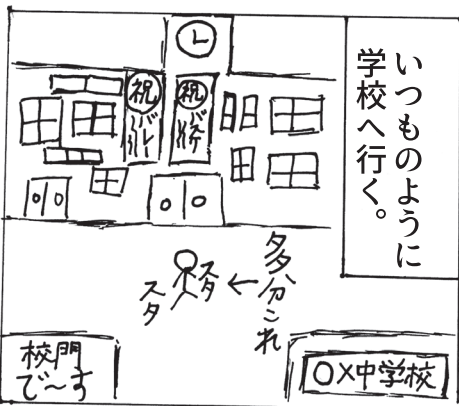
いつもの

別にいじめられて
いるとかじゃない。
けど…

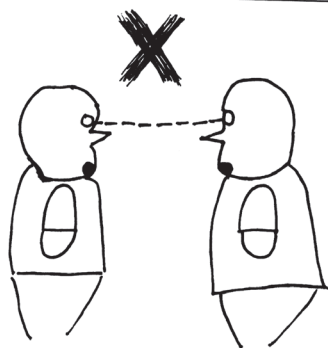


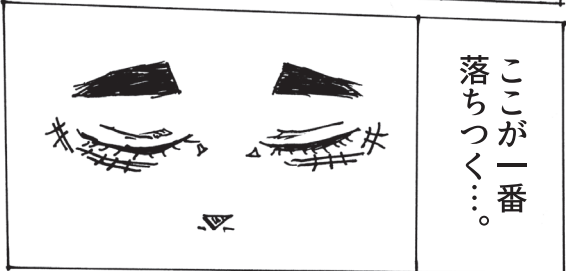
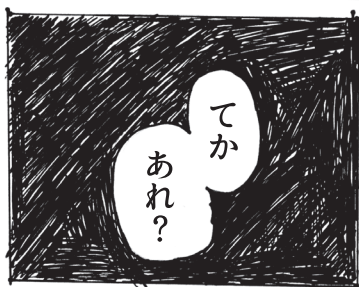
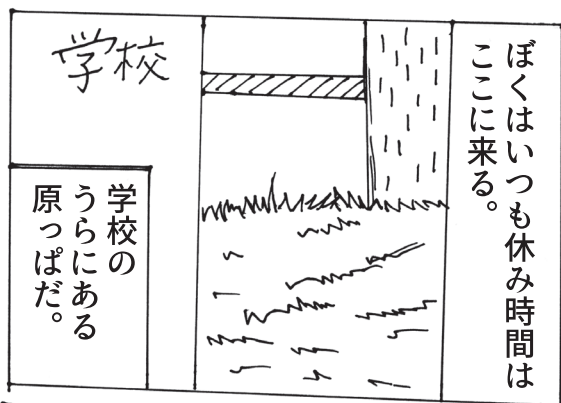
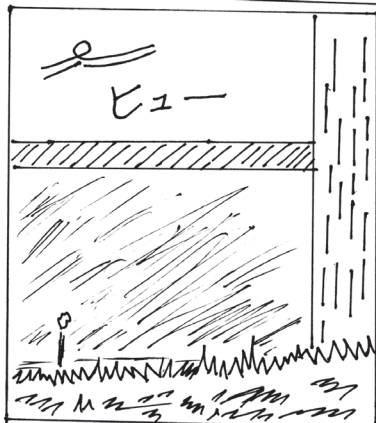
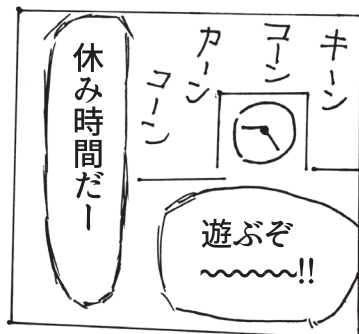
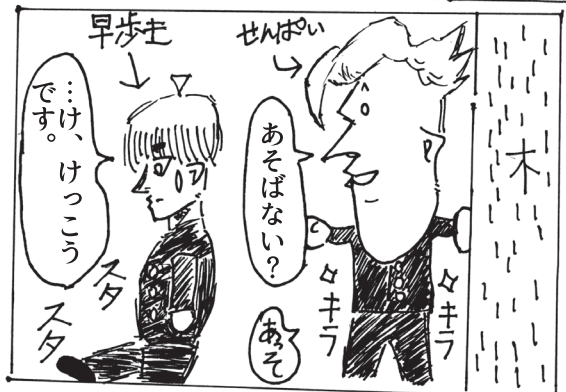
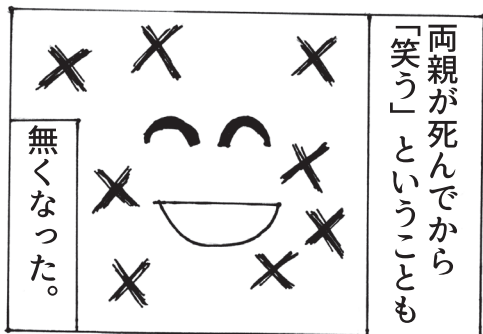
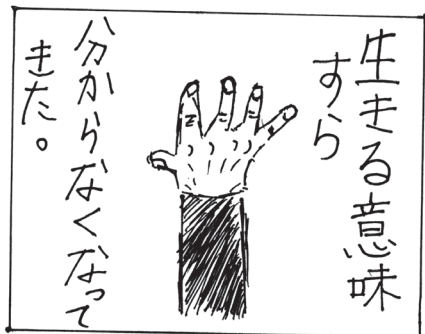
人が苦手だ…。

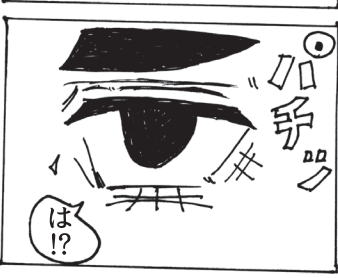
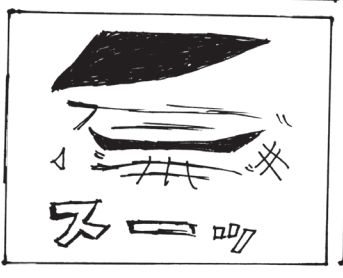
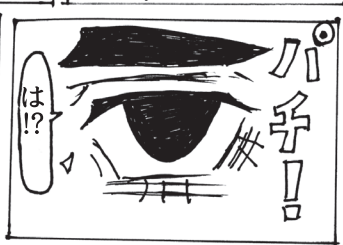
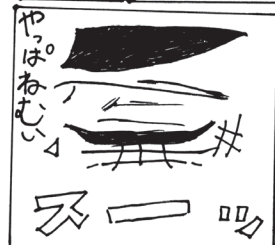
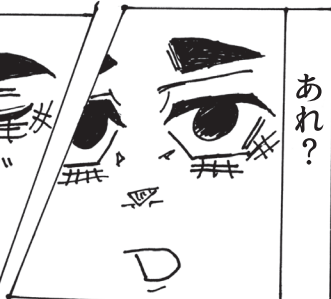
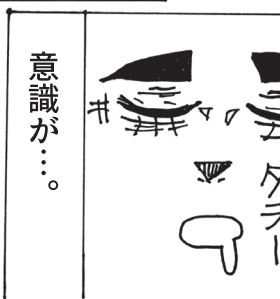
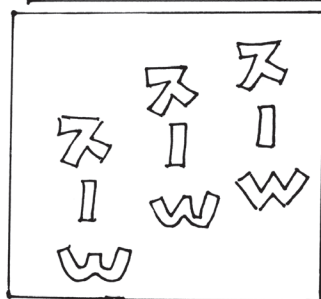
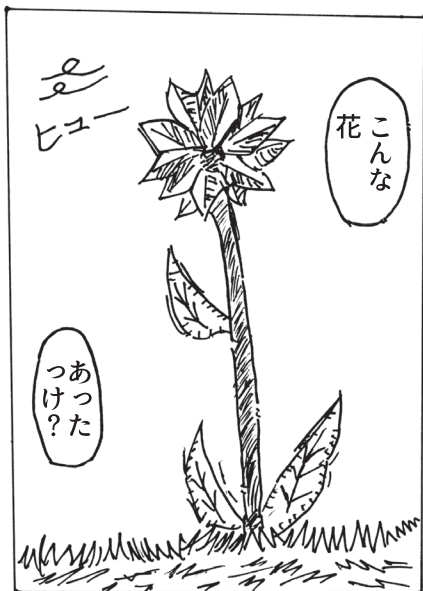
いつものように
学校へ行く。

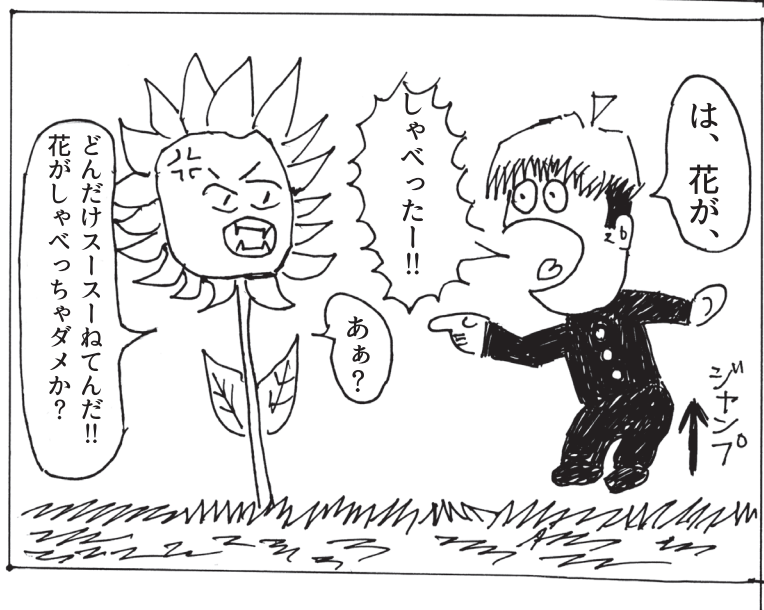
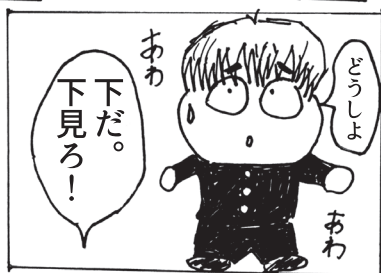
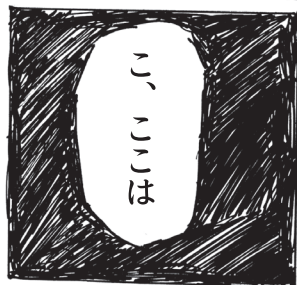
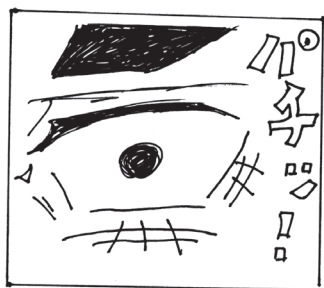
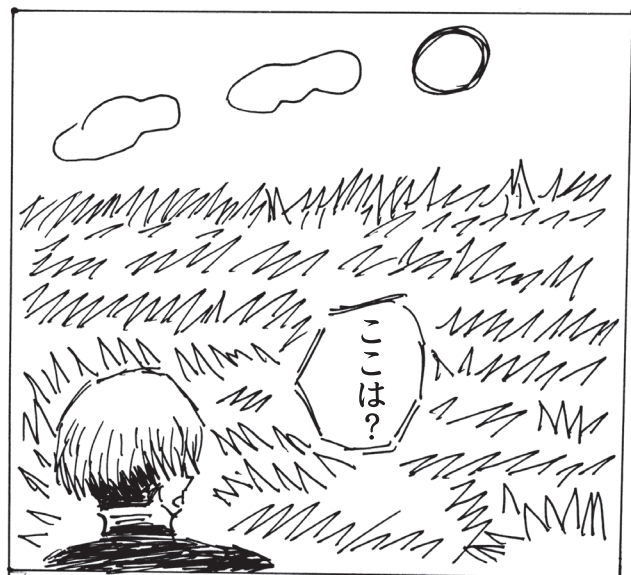


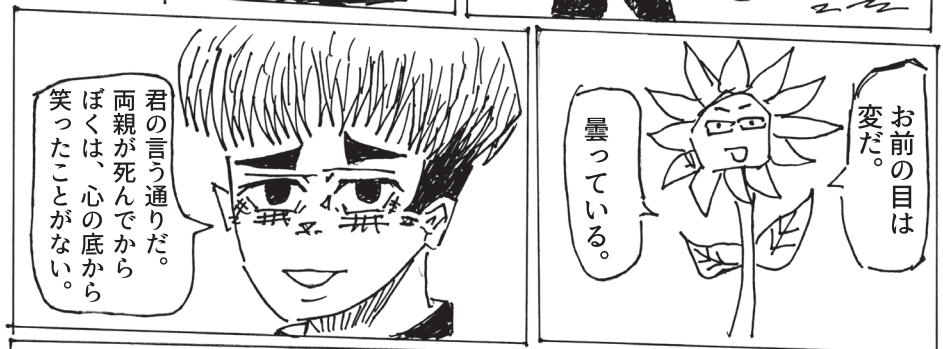
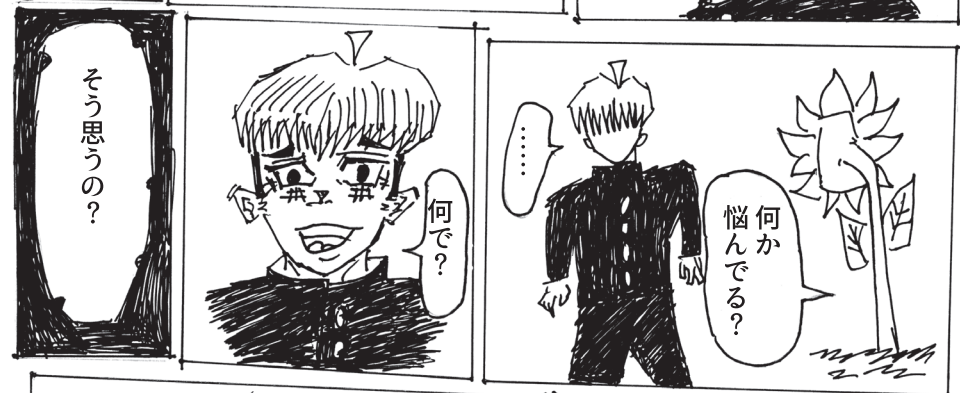
自分の思っている
こととか
ああしたい
こうしてみたいと
思うことを
相手に伝えるのが
苦手。
目を見て話すのも
ちよつと…。

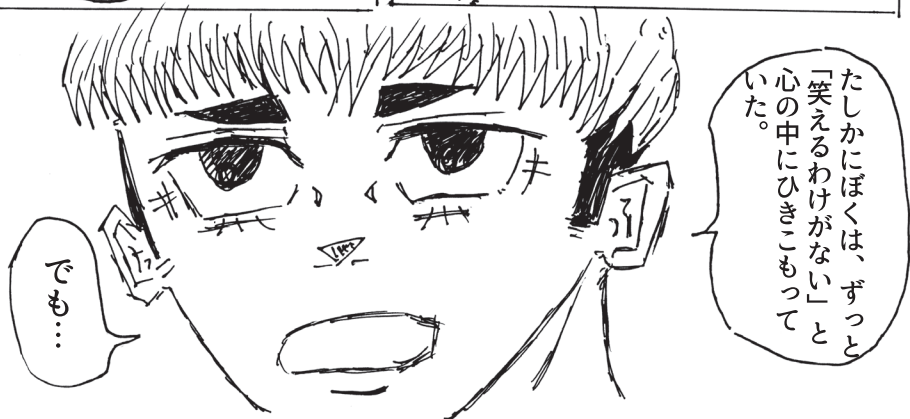
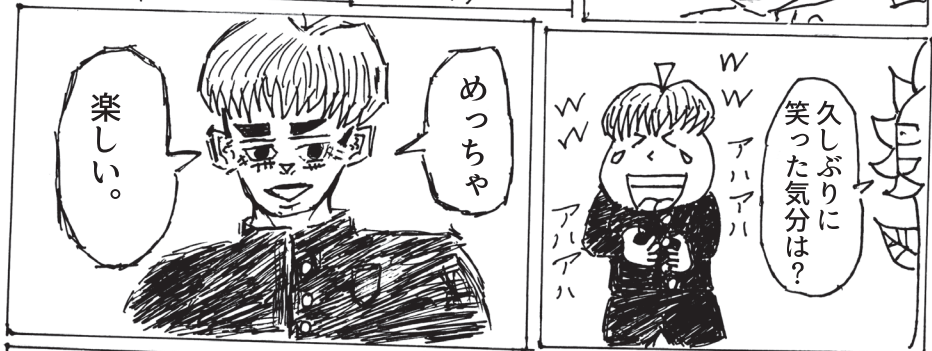














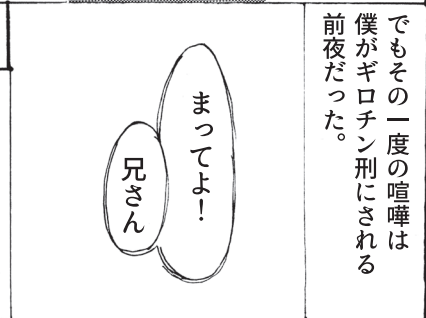
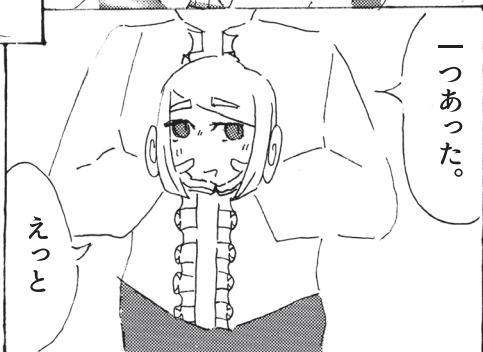
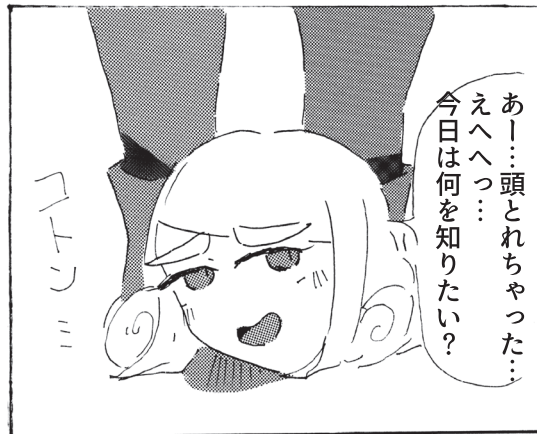
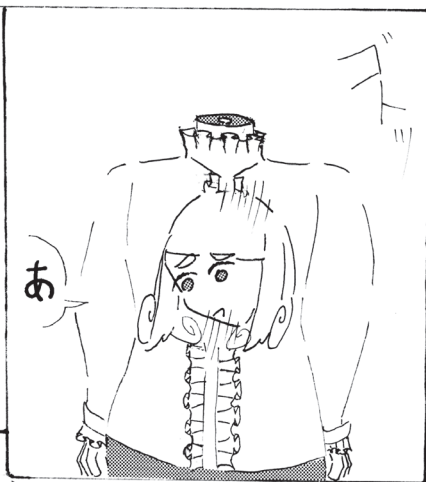
【コメント】一人の内面を掘り下げて書いていっているのが魅力的だと思います。近い画角のショットが多かったので、草原に寝転がっている主人公を遠くから描いた大ゴマを入れたりすると、心情の開放感で出てより良いかなと思いました。

現実風味 の 魔法世界





【ポイント】魔法で表現...ではなく、現実のように登場人物が考えるタイプの「想像」なところですよ。



なんとかするから…

やりたい
ことは
すべて
やった
…

で…
でも…
えっと…

ボクは満足した

お前にはもう
嫁と子供が
いるだろう。

幸せにしてやれ

えっと…でも
あのっ…

もう…
知らない

これが弟との最後の
会話だった

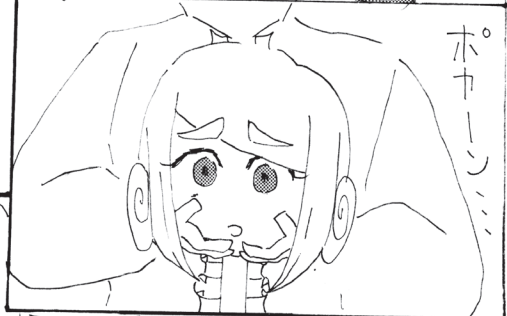
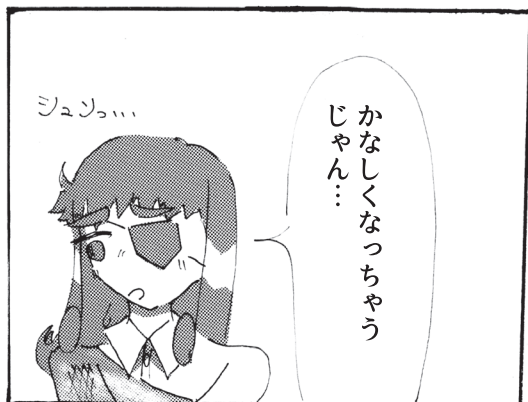
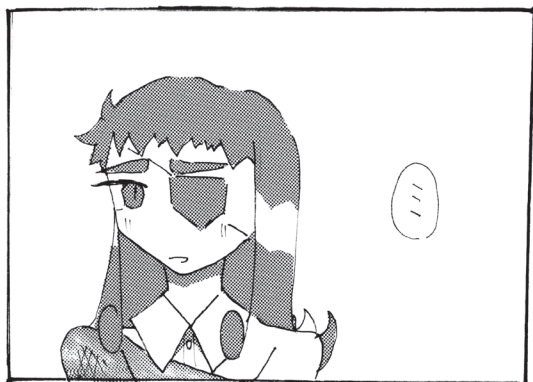
あの時なぜ弟が泣いて
いたのか

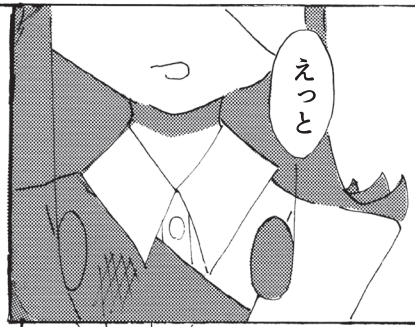
あの時は本当に
分かることができなかった

今になっては弟の
顔も半分くらい
想像で

ボクがギロチにされた
時だから、200年くらい
前だし、死んでる
はず…

写真も無かったし
二度とかおを
見ることできない
かもね。
しかも僕が





えっと

革命ってどんな
かんじかなって…

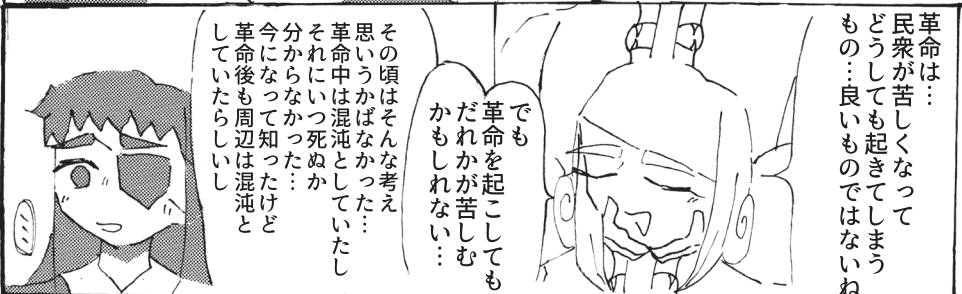
その…っ
200年くらい前に
死んだって
言ってたからさ…
その位にあったなって…



革命…僕も体験したね

本当!?

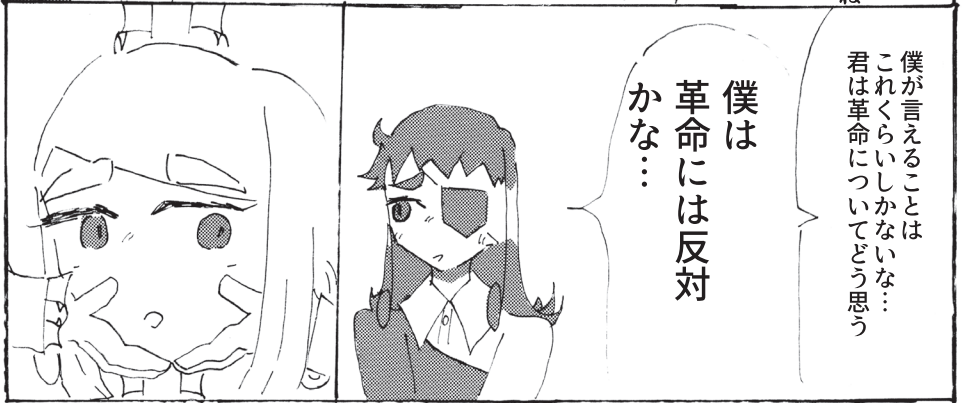
途中で
死んじゃった
けど



革命は…
民衆が苦しくなって
どうしても起きてしまう
もの…良いものではないね

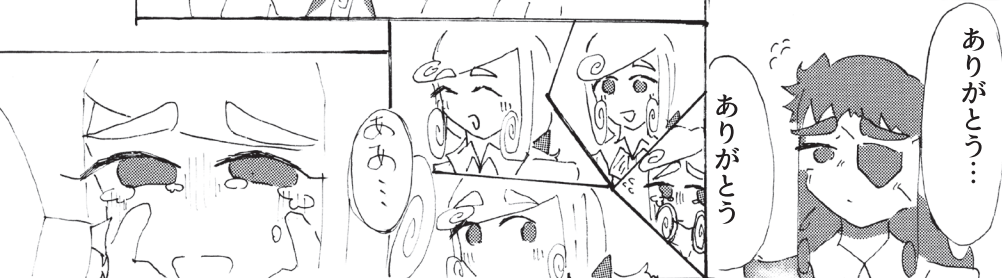
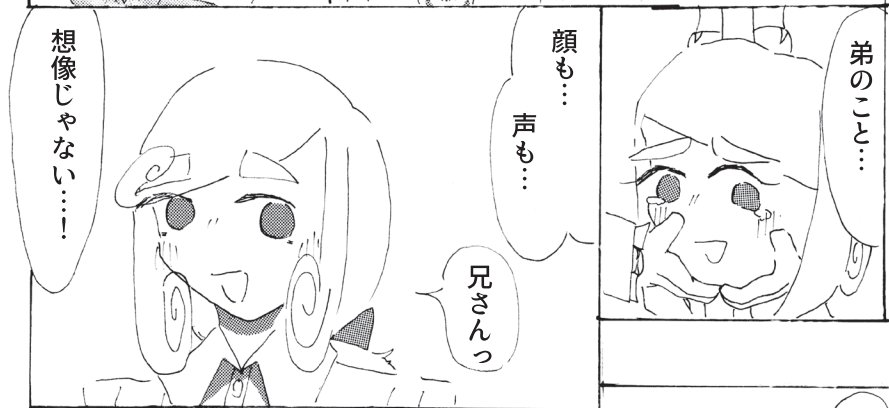
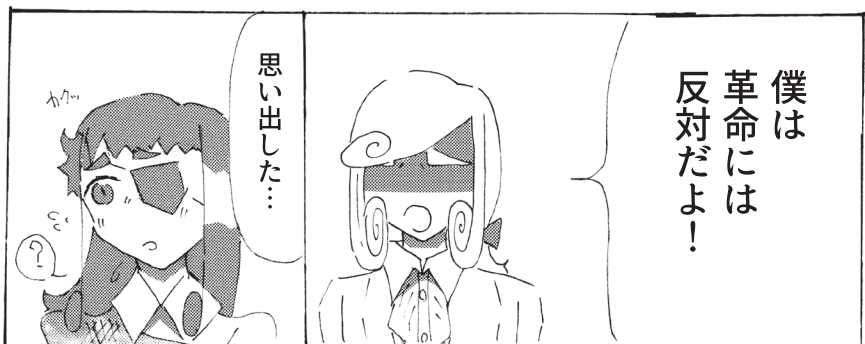
でも
革命を起こしても
だれかが苦しむ
かもしれない…

その頃はそんな考え
思いうかばなかった…
革命中は混沌としていたし
それにいつ死ぬか
分からなかった…
今になって知ったけど
革命後も周辺は混沌と
していたらしいし

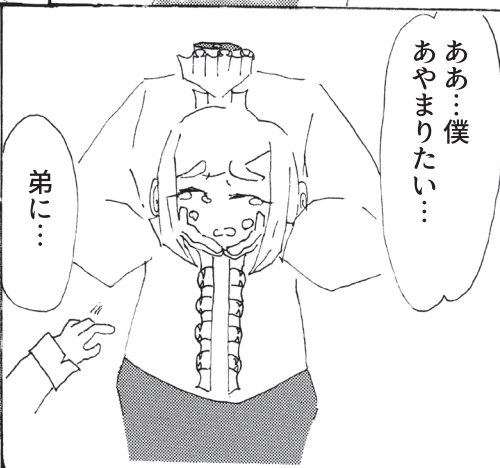
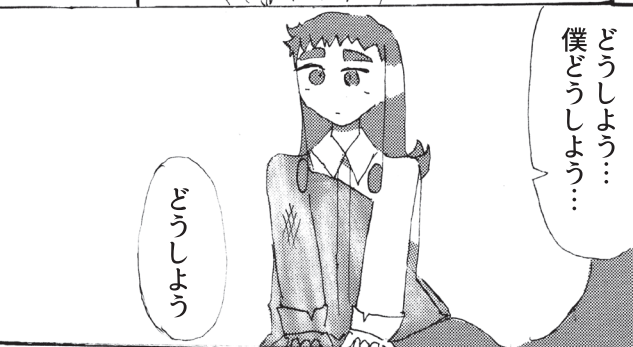


僕が言えることは
これくらいしかないな…
君は革命についてどう思う

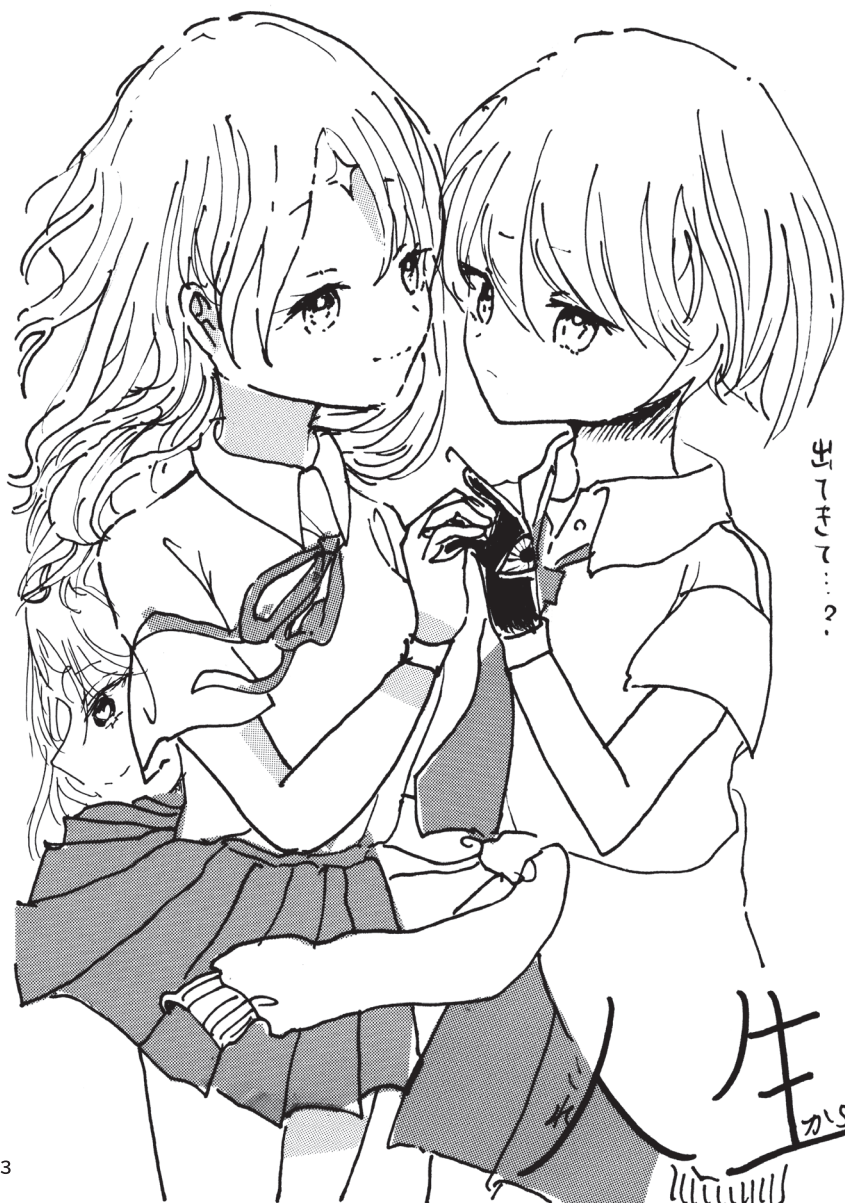
僕は
革命には反対
かな…



【コメント】200年の時の間隔を経て、思い残したことに何かのきっかけで向かい合う、少し悲しいけれど前向きな物語ですね。
屏絵がすごく良かったと思います。



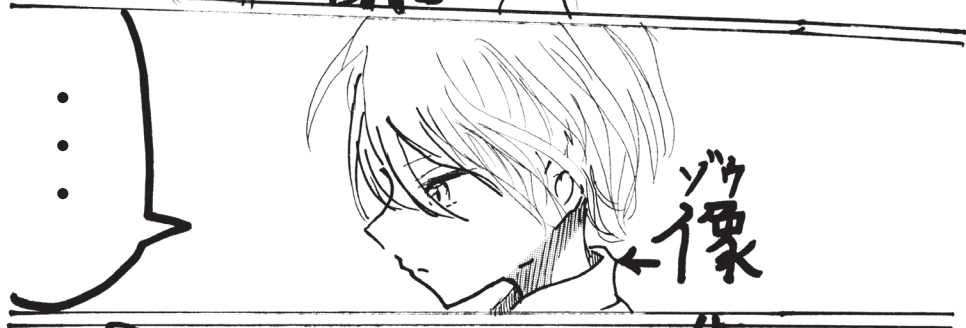
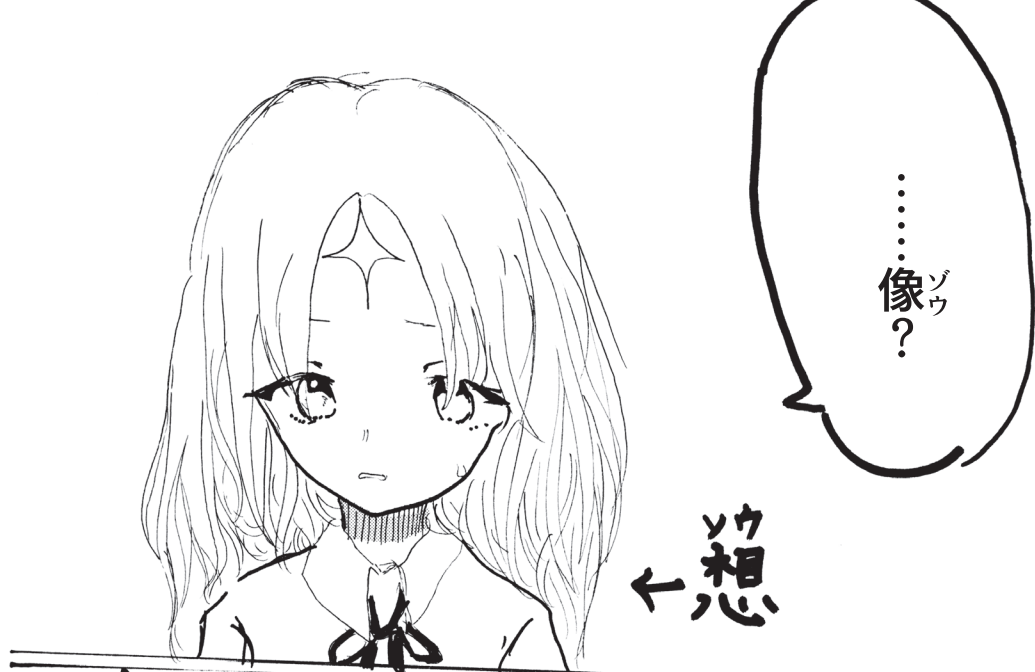
わたしたち 双子の



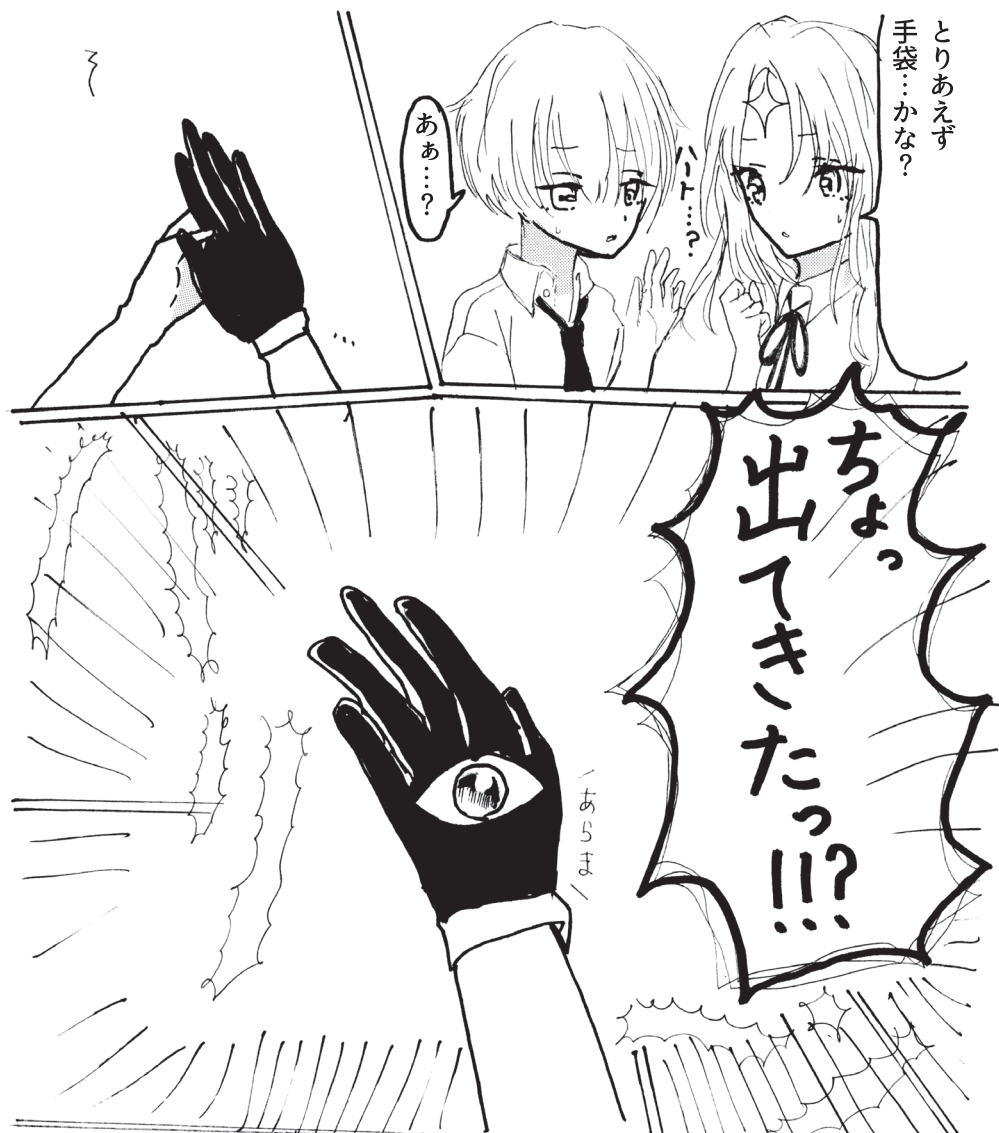
双子の想と像。

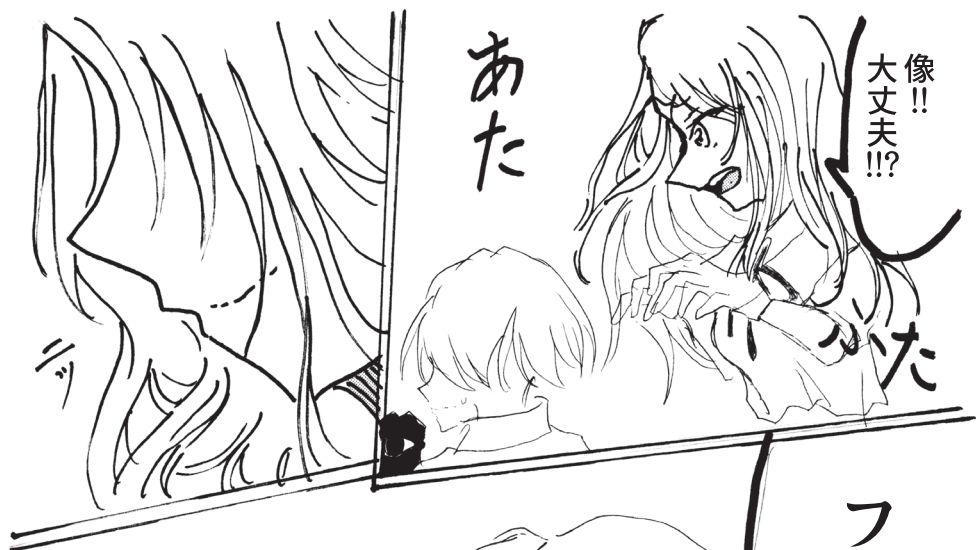
ある日、像のうでにへんなもようか
出てきて……

人生



【ポイント】何故手に目玉が出てきたのか。どうして想が「残念」と言ったのか。いろんな想像をしてほしいから。





あた

像!!
大丈夫!!?

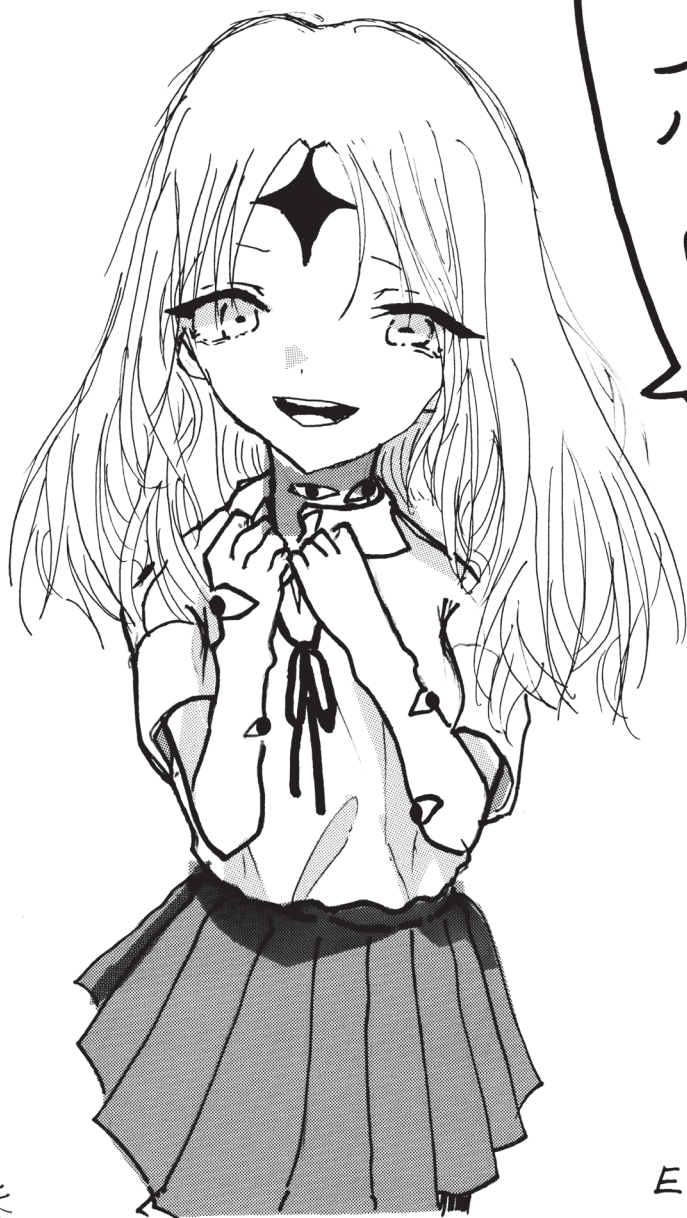
がた

フツ...

ジワ...

フフフツ...♡





残念♡

END(っ)

「あとかき」

見て頂き感謝します。

昨年もミラマカを書いているので
是非ご一読ください。

私、昨年のあとかきにて
「来年もアイドルを書こうと
思います！」
と書かれておりましたか、
嘘をついてしまいました。

申しわけありません。

長いですが、一言。



「あきらめたら...
すでに試合終了ですよ...?」

バイバイ♡

おまけ①
ホルトガル語

obrigado!



Canto

Consigo!

【コメント】私は身勝手だったりするし、そして妖しげな一面も持ち合わせている。いつも一緒にいるから、時には迷惑をかけたり傷つけたり。でも一緒にいてくれてありがとう。これからもよろしくね。想の視点で、そんなふうに想像して楽しく読みました。皆はどう読むんだろうなあ。

私の好きなもの

おまけ②

本気で書いた
始皇帝

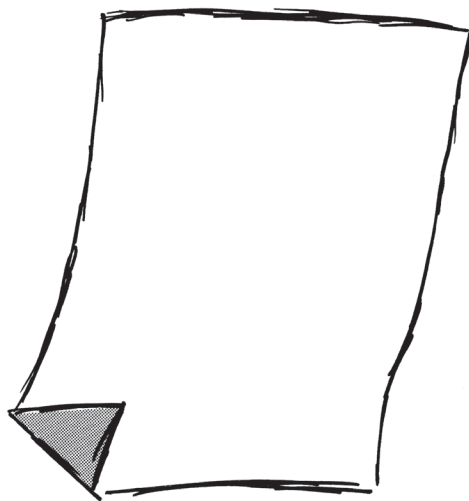


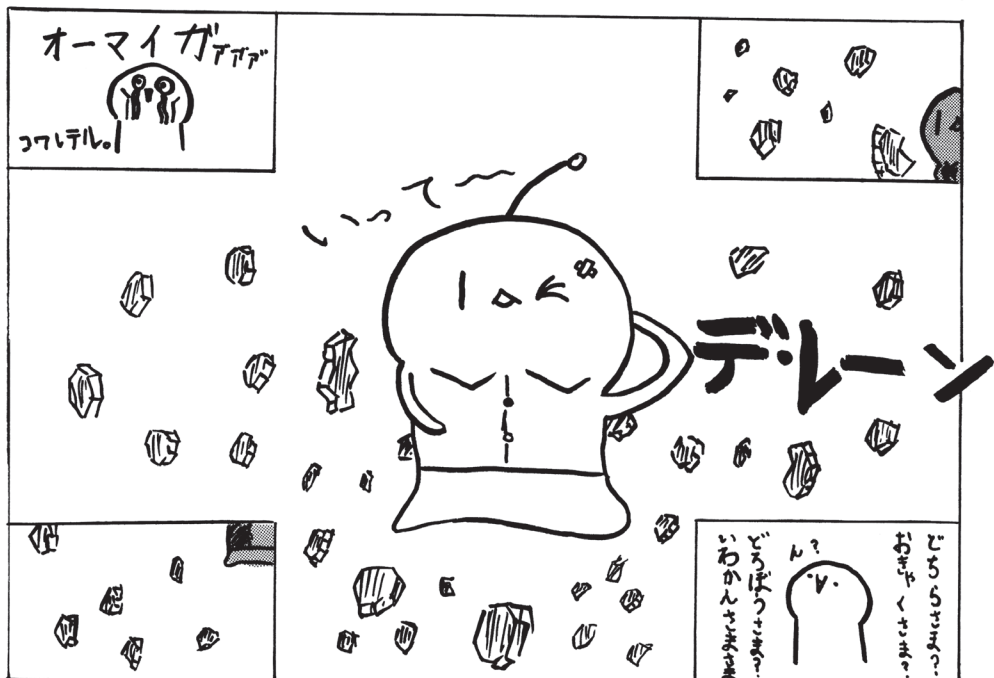
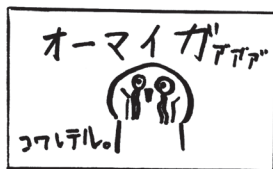
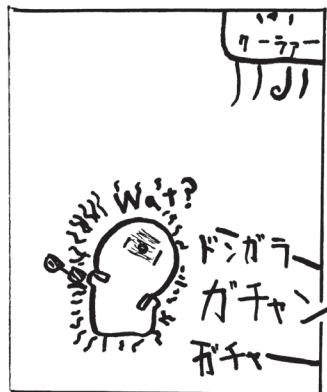
バイ
バイ

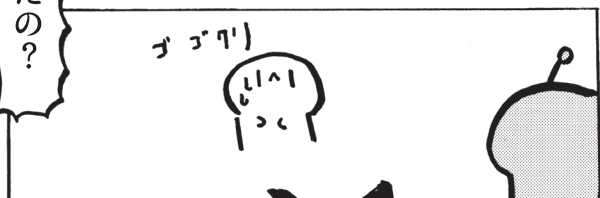
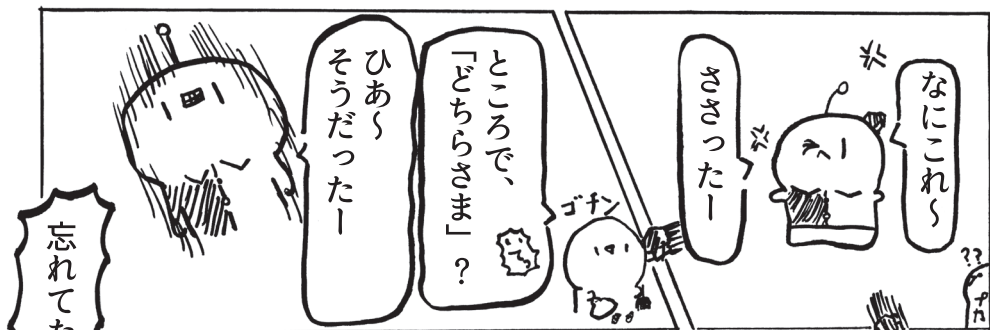


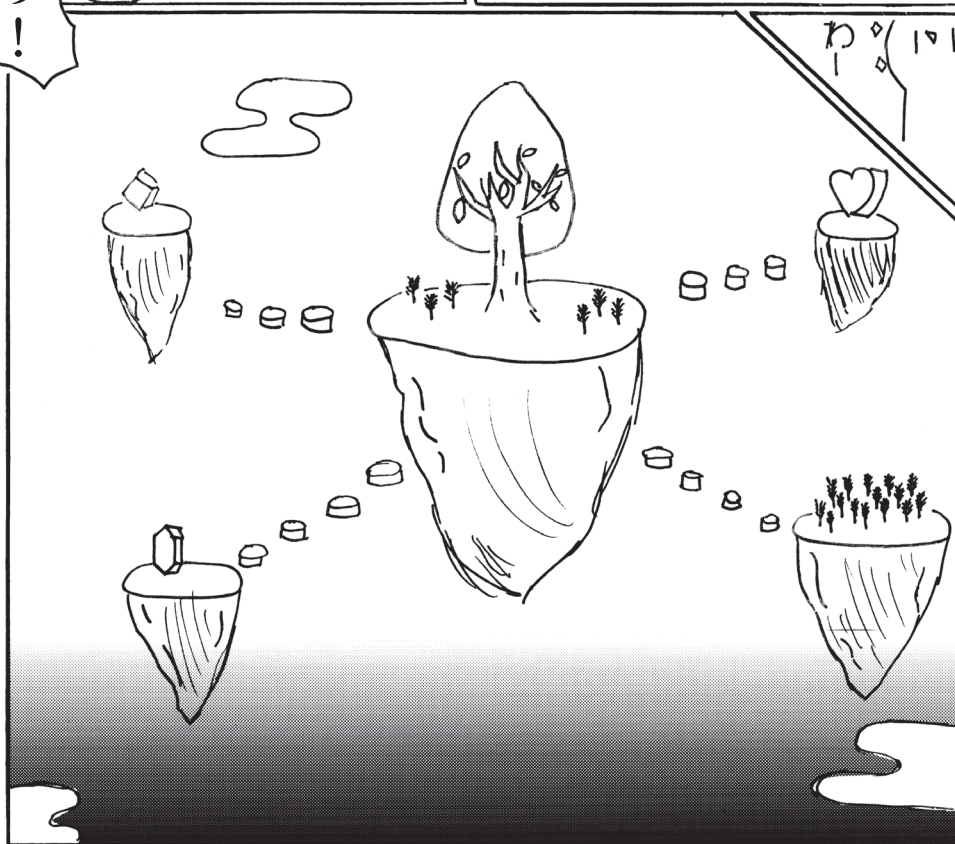
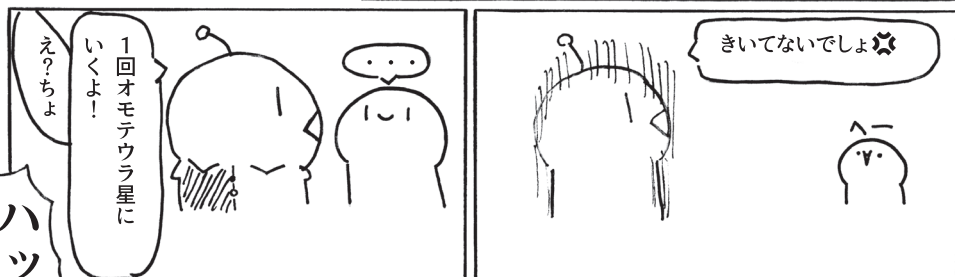
表のすがた うらのすがた

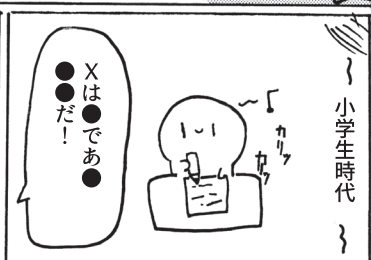
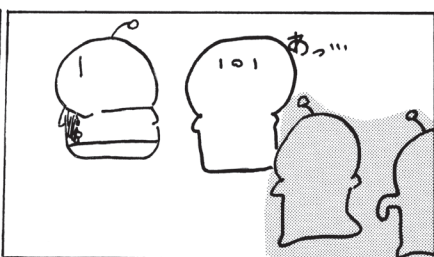
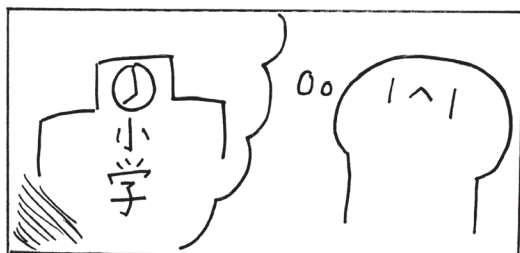
～表は9割 うらは1割～



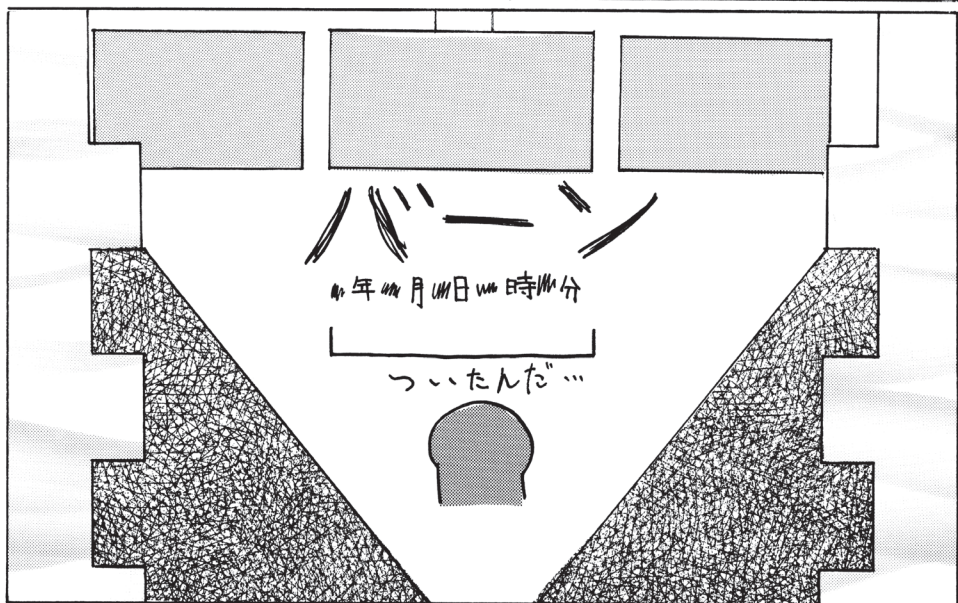
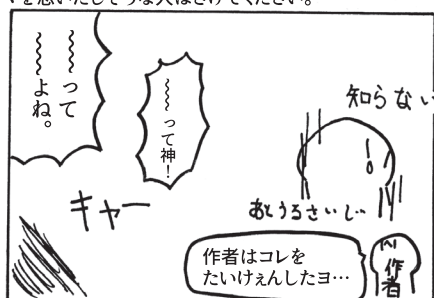








※トラウマを思いだしそつな人はさげてください。

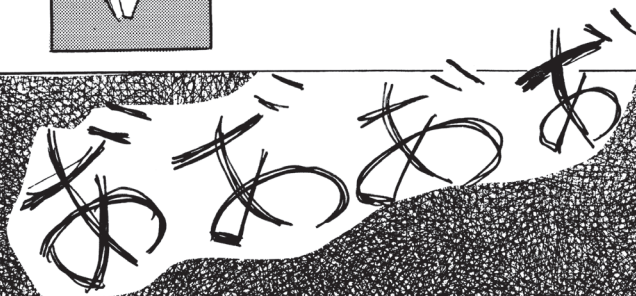


だから
「教えた」よ。



「気づいてない」
だけ。

気づくのは
いつでもいい。
ぜったい
「自分のため」
になるから。



10年後



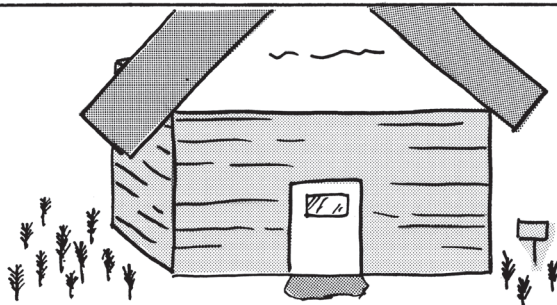
大きな都市からは
離れた町に
本屋があります。



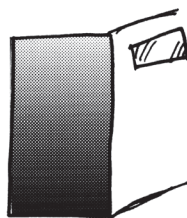
とても人気で
ひどいときは千冊の本が
開店したゆんかん
うりきれます。

老人とわかものが
やっているおみせです。
では、そんなお店に
いってみましょう。
どんな本かはまだ
ないしよ。

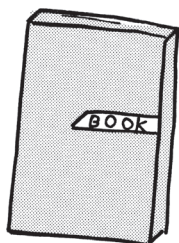
さあ、
見えてきましたよ。
木造のお店ですね



書いているのは本屋さん。
本屋さんはいくらでも
あるよ。



やった！最後の一冊！
私は幸運ですね。



それでは、
読んでいきましょう。

何かひびく事はありませんか？

大切なことは
人のことを
よく知ることだ。

END

僕は
スパタ

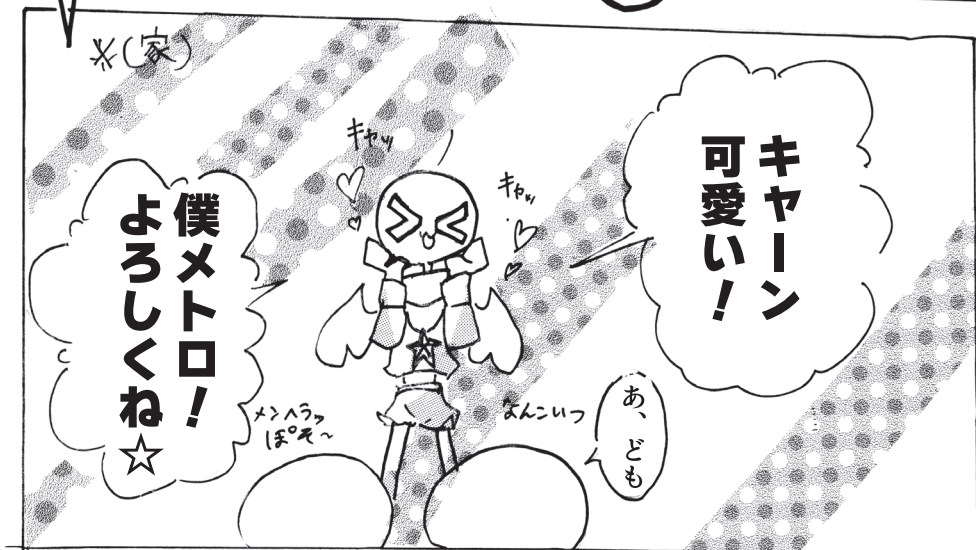
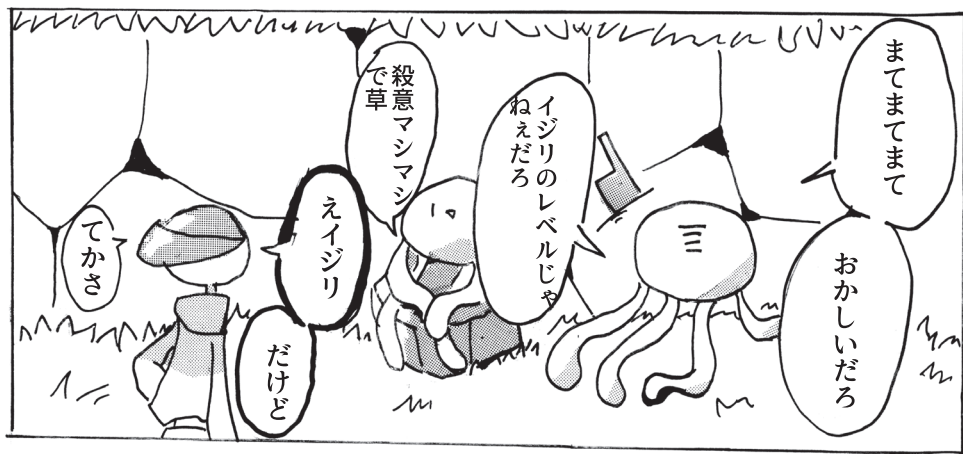
達を

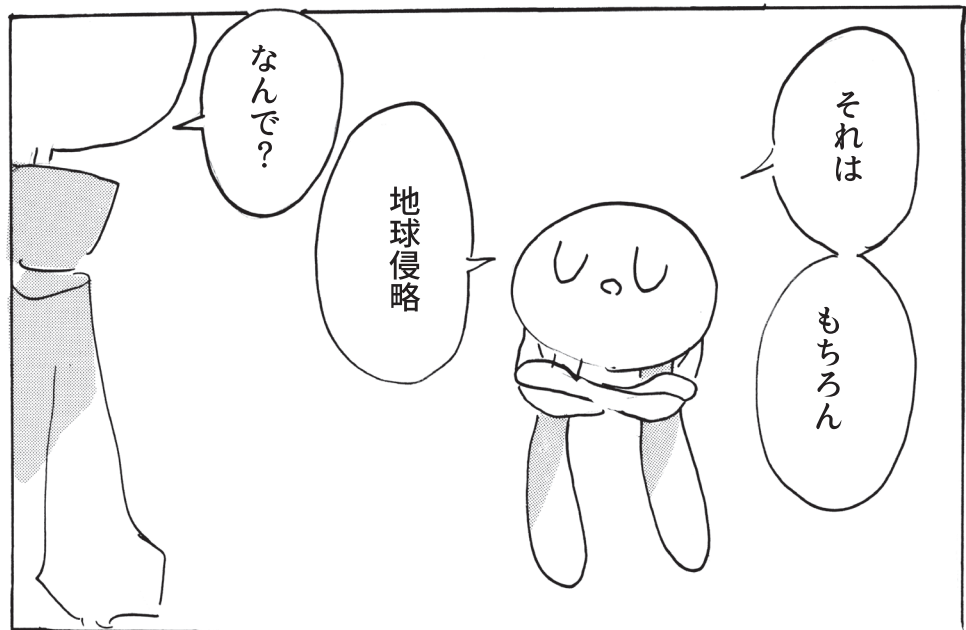
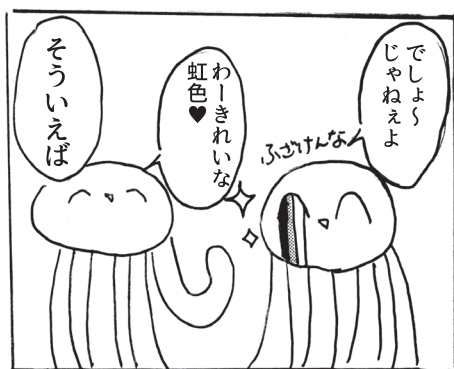
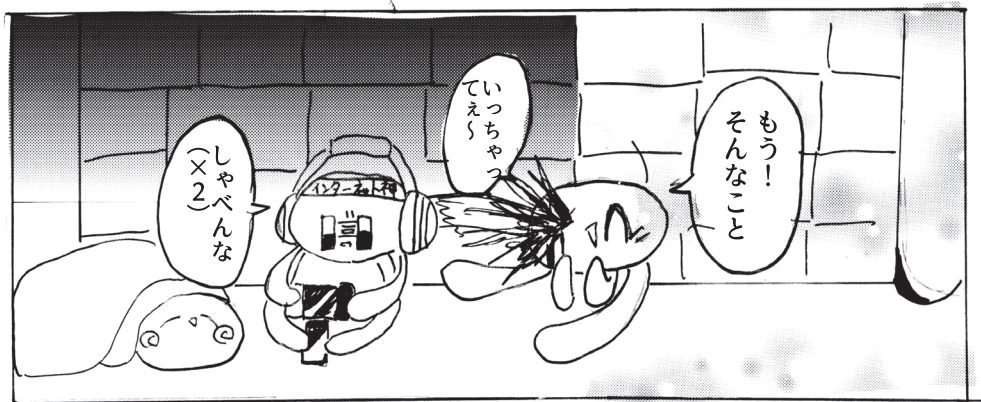
お前

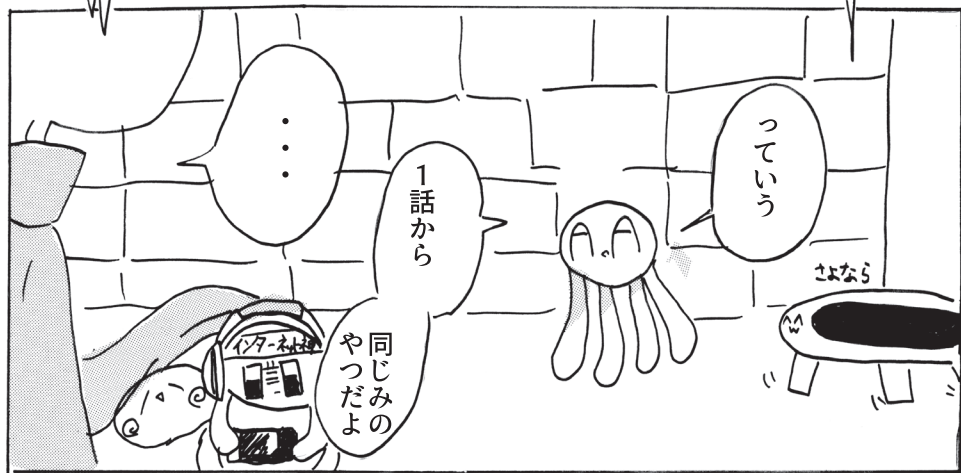
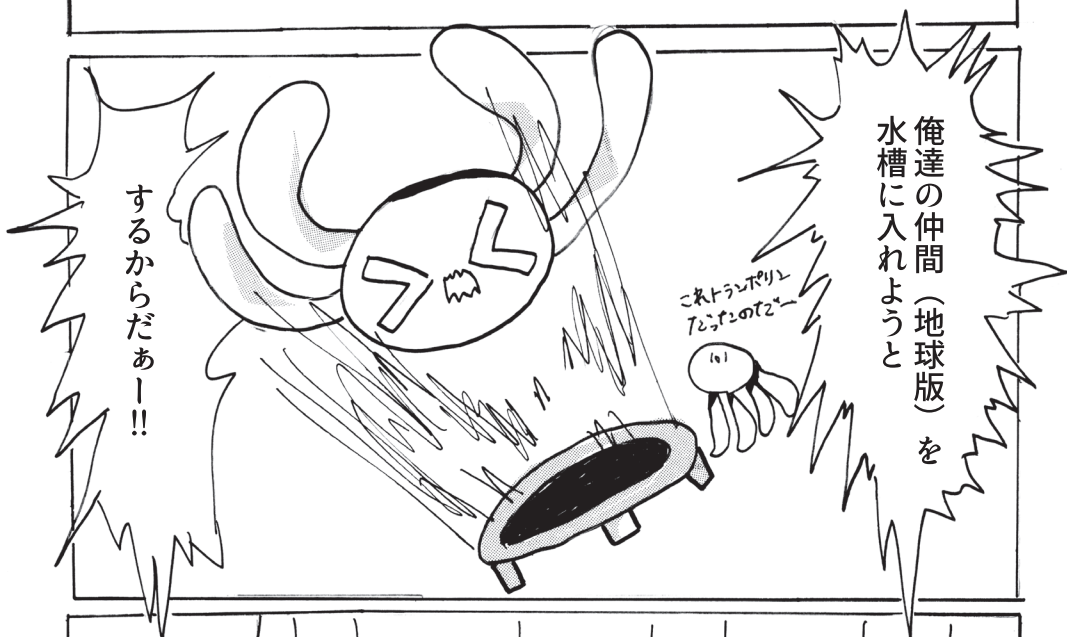
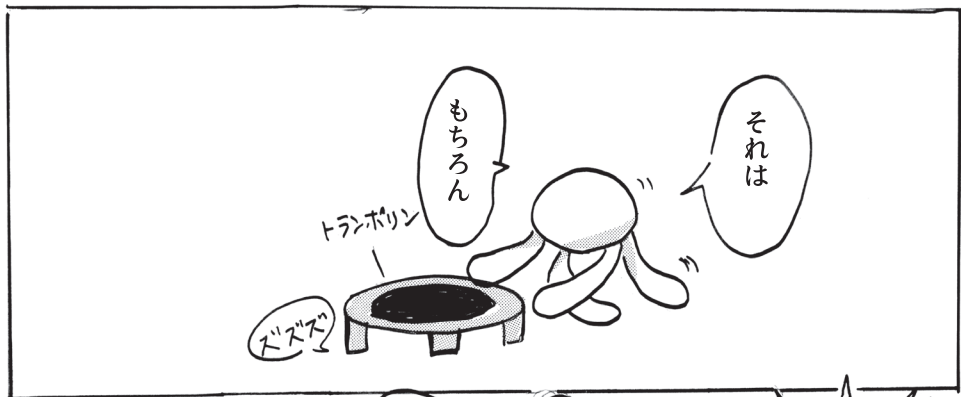
来た者だ

イ・ジ・リ・に

【ポイント】思っていたこととはちがうという展開がポイントです。







ちょまてよおかしいだろ　なんでだよおかしいってアジでさえ？

いや無理だってまじ、

地球じゃないとかふざけんなよ

こちとらどんだけ苦勞してここに

きたと思ってんだよ

ああ

あああ

あああああ

ネンデダヨオ

え？どゆことお？

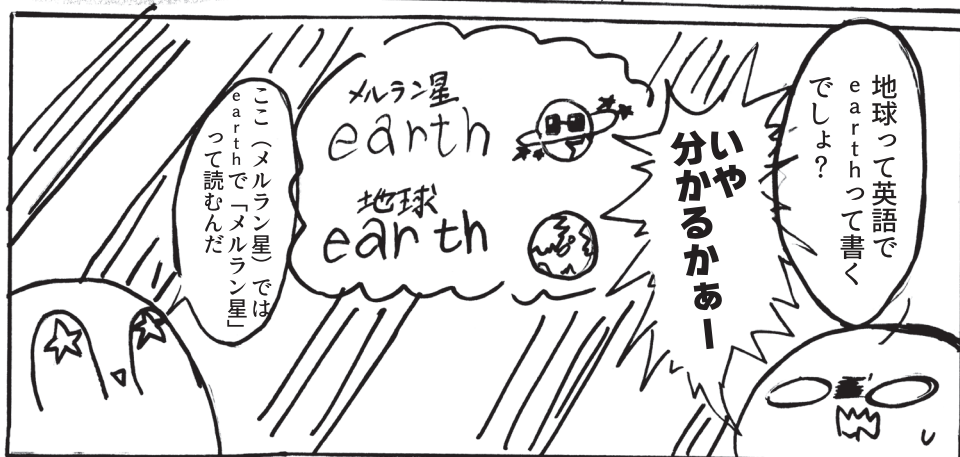
どっから？

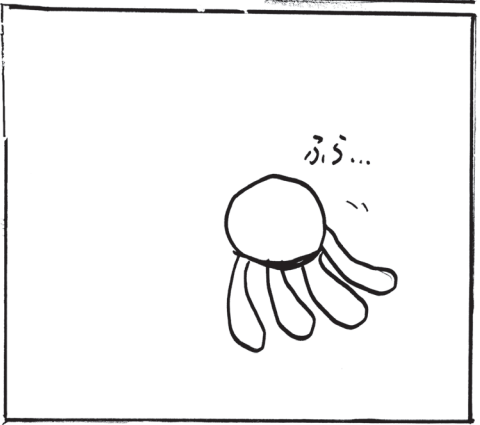
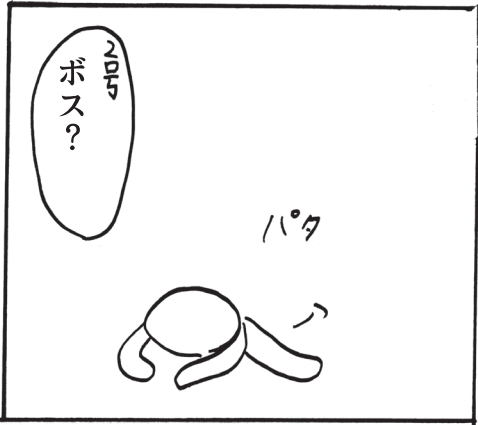
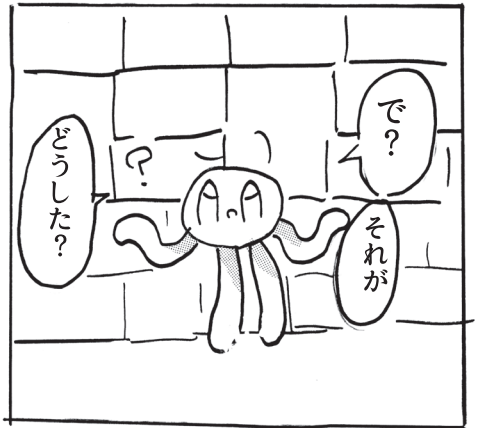
えたんだ

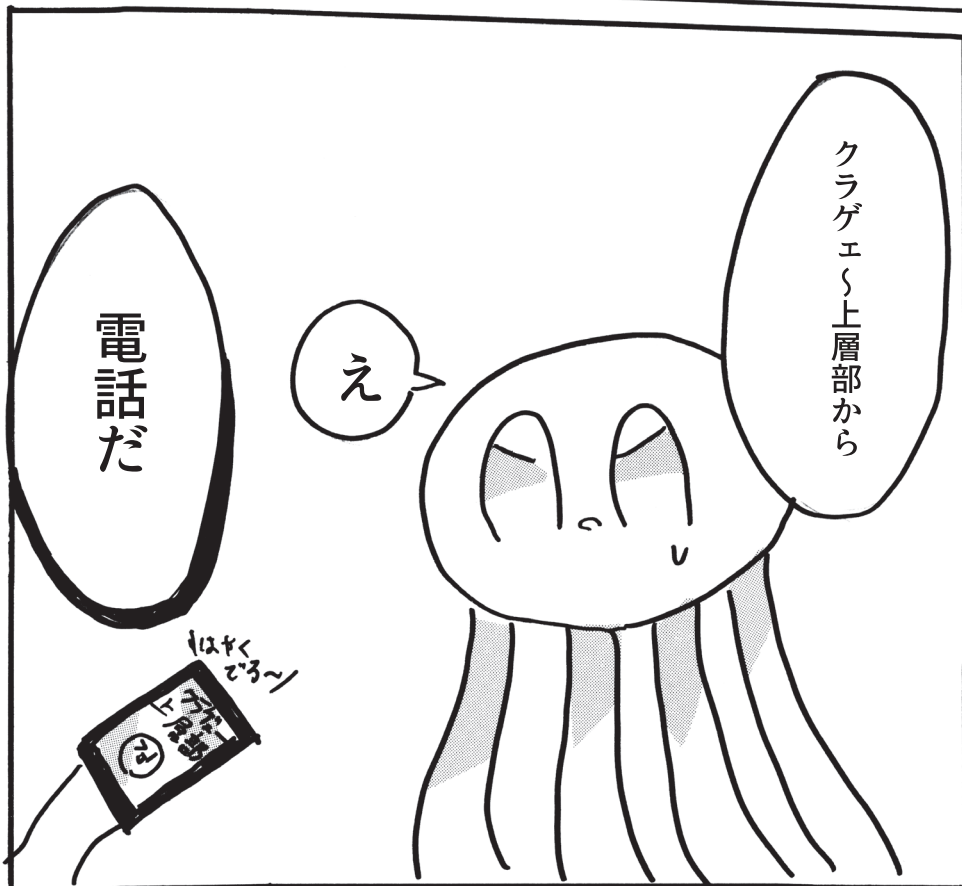
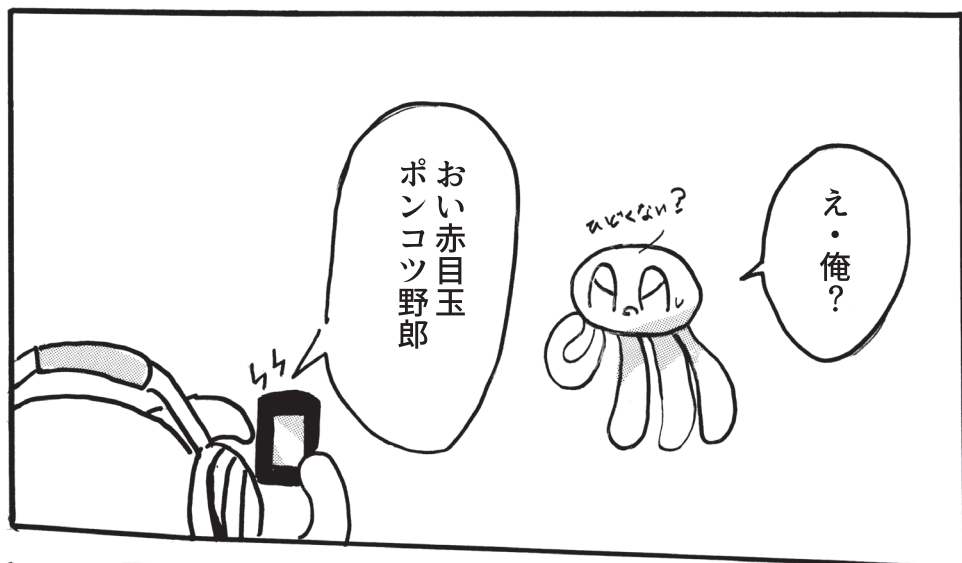
よ？え？まじでえー

ど・こ・こ・で

何をまちがえたのおお (| ▽ | | ▽ | | ▽ | \ (^ o ^) /







【コメント】ストーリーがどの瞬間を切り取っても面白いです。伝わりづらいつと感じる絵があったりするのですが、少しだけ残念。決めシーンの絵やポテチの袋の絵だったり上手なので、全体の絵の完成度も高めていくともっと良くなります。

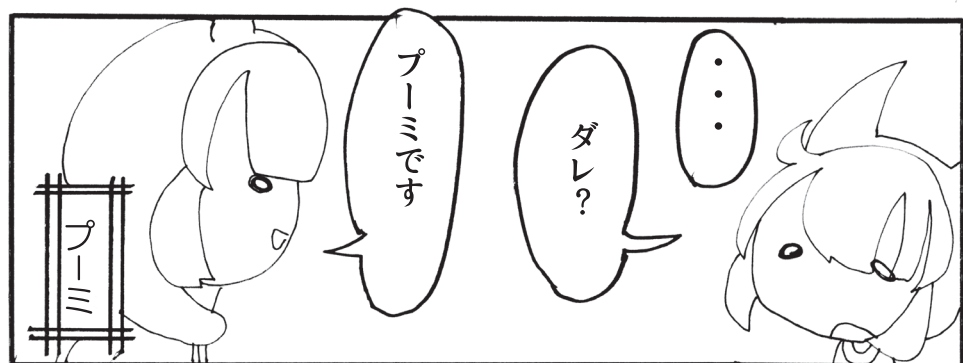
無限大の

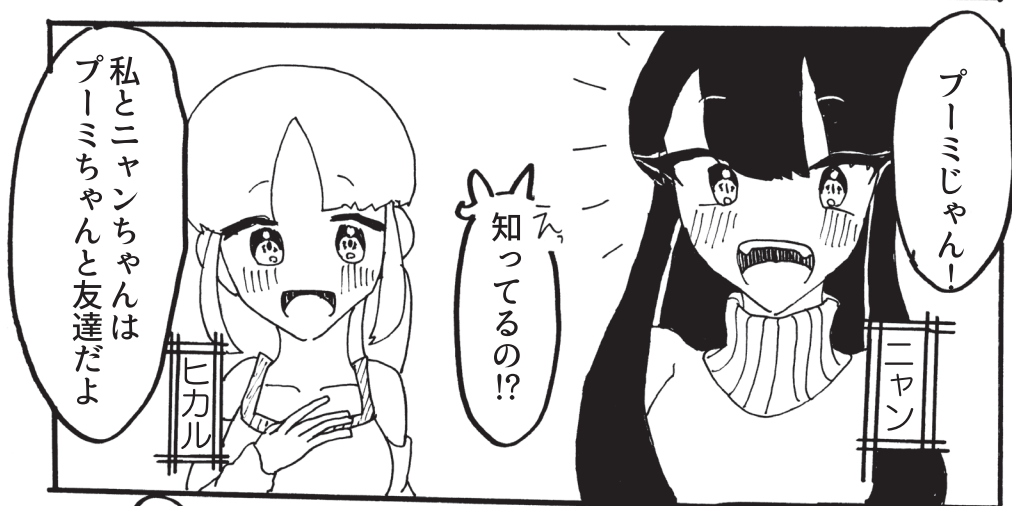
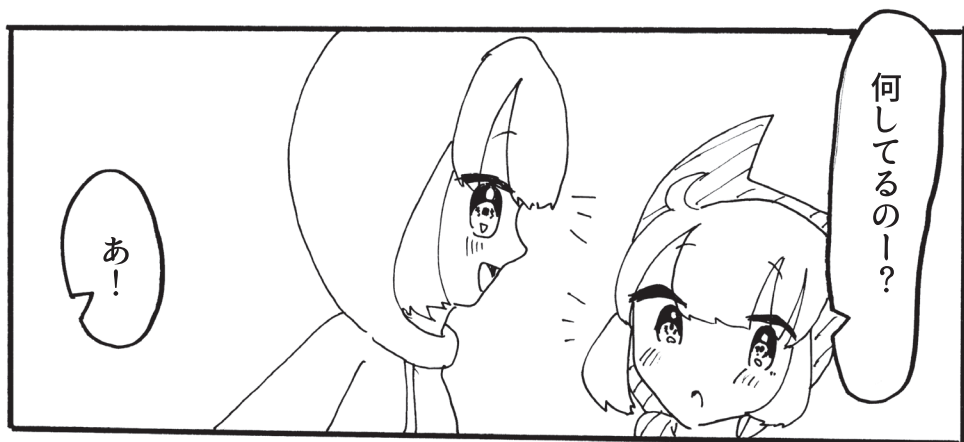
可能性!

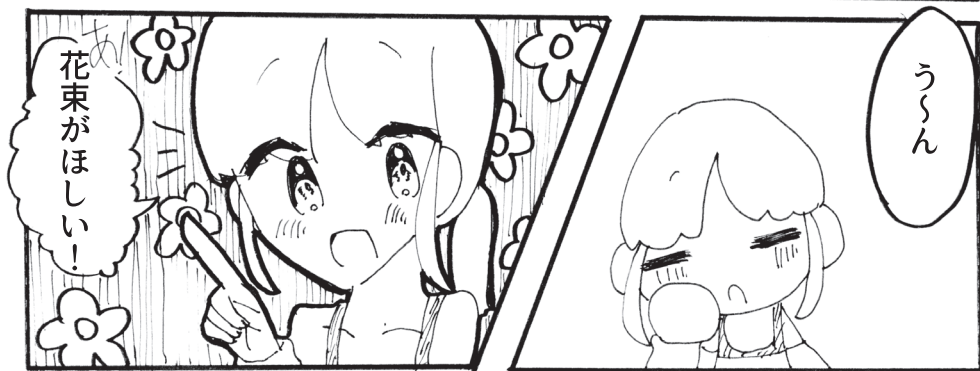
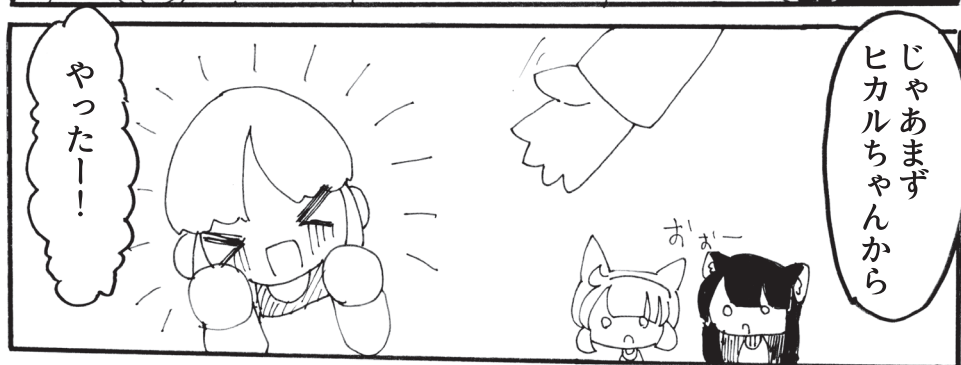
~想像~



【ポイント】想像したらなんでもできる・出てくる! 夢のようなマンガです!







おまかせ
あれ!

お

わっ

ンッ

ホントに出てきた!
すごい!



わー!

じゃあ
私はネコに
かこまれたいな!

お!
やった!

じゃあ次は
ニヤンちゃん!

オーケー
かしこまり

おっ

おおく!

スー
最高だねえ

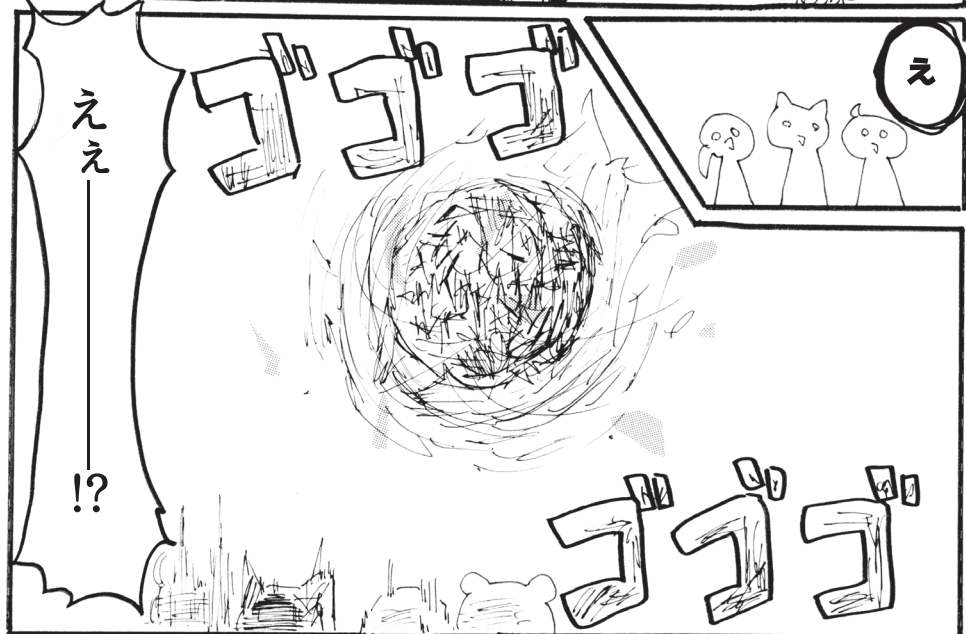
スー
いやあ

いっすふ

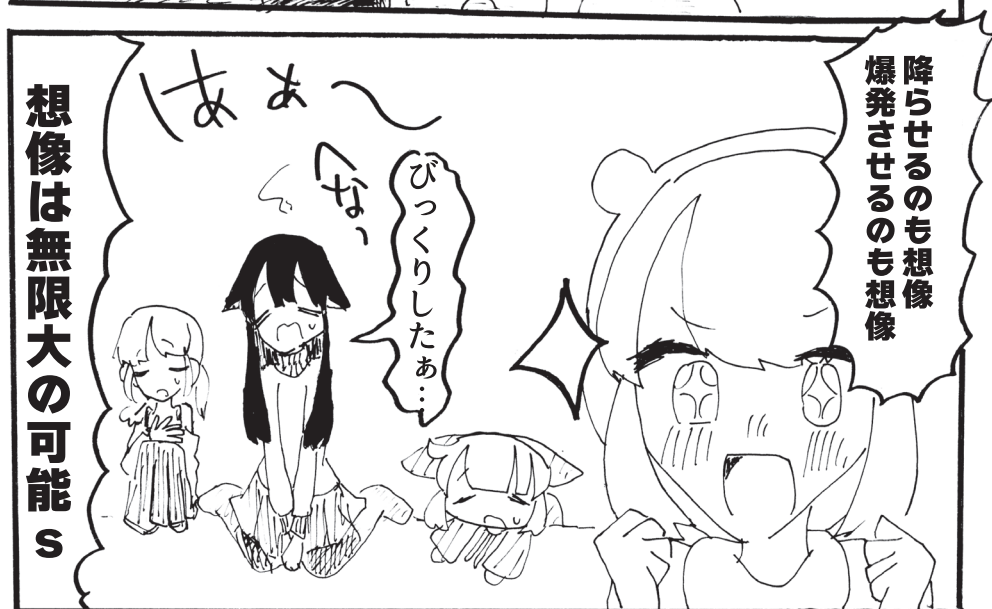
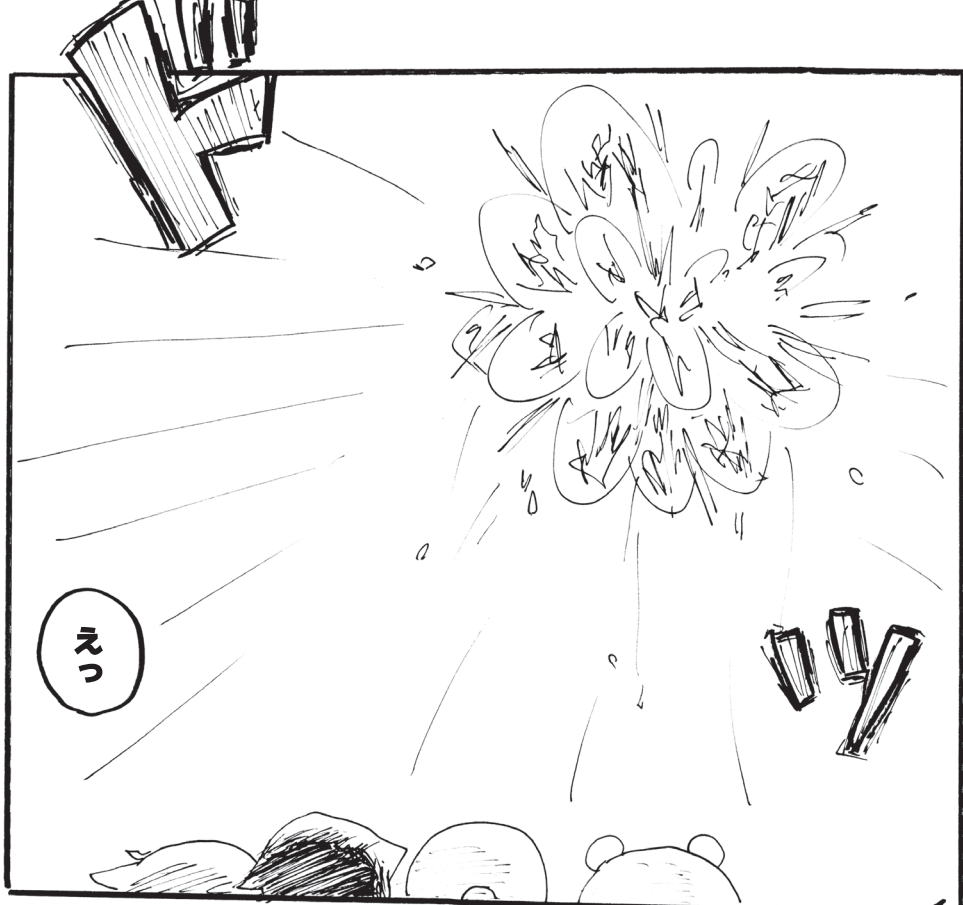
おっしや
来たあ

じゃあ最後に
コミちゃん!

じゃあ
私は……



【コメント】花束のシーンのコマの絵が素敵だなと思っていたら、3人目の「コミちゃん」が見事な変化球を投げてきました。隕石を爆発させた後のセリフは、説得力もあり、やけに格好いい。名言かもしれません。



おしまい☆